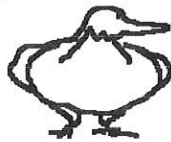


じやりみち



……仮設支援情報……

第38号

発行日 97.4.17

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL:078-578-6921 / FAX:078-578-6923

E-mail:ngoteam@mb.osaka.infoweb.or.jp

口座番号:01180-6-68556 (郵便振替)

お久しぶりです。37号から1ヶ月。実は1997年度に入るに当たって、じやりみちの発行の回数や内容などを再検討しています。で、今年は発行回数を月一回にしていき、内容を充実させるということになりました。まだまだ発行日についてや、内容についてはこれから話し合っていくため、39号の発行も日にちがしつかりしていません。でも絶対にお届けしますので楽しみにしていて下さいね。今年度もどうぞよろしくお願いします♡

さて、1ヶ月もあいたので、全体会やざつくばらん、事務局の動きがわかるようにカレンダーにして紹介します。

- 3/20 (木) じやり37号発行
- 3/21 (金) 演劇キャラバン (大阪) / 灰谷健次郎といのちの広場展実行委員会
- 3/26 (水) じむきよく会議 / ざつくばらん (共生・共創センターについて)
- 4/27 (木) ざつくばらん (提言・提案チーム)
- 4/1 (火) じむきよく会議
- 4/2 (水) じむきよく会議 / ざつくばらん (フェリシモプロジェクトについて)
- 4/5 (土) ハビタット総会・学習会
- 4/8 (火) 灰谷健次郎といのちの広場展実行委員会
- 4/9 (水) じむきよく会議 / 全体会
- 4/10 (木) じむきよく会議
- 4/11 (金) 「御蔵5-5の会」話し合い / 市民とNGOの「防災」国際フォーラム実行委
- 4/14 (月) ひっこしプロジェクトネットワーク会議
- 4/16 (水) じむきよく会議 / ざつくばらん (共生・共創センターについて)
- 4/17 (木) ざつくばらん (提言・提案チーム) / じやり38号発行



ひとりごと

4/6 (日) に、村井さんとひかるで兵庫県の加美町というところにいき、和紙の原料になる楮(こうぞ)の木を頂きに行きました。和紙には楮の木の表皮を使うため、皮をむいた木が残ります。すごく軽く、白くてきれいなので、何かこれで被災者の自立支援になるものが作れないかな??と思案中。もしいいアイデアがあったら教えて下さいね♡



全体会・ざつくばらんの報告

3/26の全体会は

事業方針の見直しと「NGO共生・共創センター(仮称)」について話し合われました。これは被災者の自立や生きがいつくりのキーワードとして提案されたもので、みんなの反応としては、前回のざつくばらんで話し合われたときの、海外での成功例から、不可能なものではないことが理解できたという声や、地元で活動していくにも絶対必要なこと、とり合えずチームを作ろうよ。といった感じの意見が出て、これに関しての「チームを作ろう」ということで承認されました。

3/27のざつくばらんは

提言・提案について、週末ボランティア、ファミリー神戸、被災者連絡会、ちびくろ救援ぐるうぶの4団体の参加のもと、大きく4つの課題を話し合いました。いい感じで今回の作業チームの議論は白熱したわけですが、公的支援の問題などを考えるにあたっては、根本的な部分でいつも考えていかなければならないのが、「生存権」「生活の基盤に対する保障」ということが確認され、今後のこの「公的支援」についてはそれぞれの役割というものをもう一度考えていくきっかけになるのではないかと思います。次回4/17(木)に話し合うことになりました。(Byチーム担当隆太)♡

未使用

てれぶおんカード、く・だ・さ・い♡



4/2のざつくばらんは

今年度も株式会社フェリシモからの助成金をいただけることが決定したことから、説明も兼ねて「今後どのようにしていこうか?」「共同プロジェクトとしてみんなで考えていこう」というようなことをプロジェクトごとに数班に分かれて話し合いました。「なにをもって共同とするのか?」と、なかなか答えの出しにくい班もありましたが、とりあえず緩やかなネットワークを基本に事業計画を立ててもらいました。

4/9の全体会は

がんばろう神戸さんが提案する仮設住宅からの引っ越しを手伝い、精神的・経済的支援をしていこうという「市民版ひっこしネットワークプロジェクト」について、「仮設」NGOも一緒にやっていこうということが承認されました。

その次に「提言・提案」チームからのざつくばらんで話し合われたことの報告がありました。各団体さんの意見は、行政への提言や市民への提言など、必要性を感じているという声が多く、きちんと考えていこうということになるとともに、特に「公的支援」については「仮設」NGOとして「法制度化」にむけての支援をしていこうということになり、承認されました。

以前、全体会の中で「移送サービス」のコーディネーター役をして下さっているファミリー神戸さんに、コーディネーター料として月5万円を支払っていくことが承認されていました。第一回目の区切が前年度の3月までということでしたが、みんなの拍手のもと、引き続きあと3ヶ月(4・5・6月)コーディネーター料をお支払いし、がんばって頂くことになりました。もちろん他にもこのようなケースがでてきた場合は検討していこうということにもなりました。(ファミリー神戸の内田さんは「コーディネーター」って大変だー!!と言いつつも楽しそうです。がんばってね!)

4/16のざつくばらんは

「NGO共生・共創センター(仮称)」について話し合われました。14人(10団体)もの参加があり、なかなか面白い話し合いになりました。実はざつくばらんの前に「地域の人たちと一緒に」というスタンスの中、この御蔵5-5で活動しているボランティア団体「まち・コミュニケーション事務局」、「すたあと長田」、「ひまわり食事会」、そしてこのプレハブを貸して下さり、いろいろとまちのために走り回って下さっている兵庫商会の田中社長、「仮設」NGOという5者で話し合いを持ちました。この事業に対してなかなかおもしろいという反応があり、この「共生・共創センター(仮称)」については「仮設」NGOが主体となって、「実行委員会」という形式でやっていこうということになりました。次回の話し合いを4/25(金)10:00から持ちます。参加できる方は是非お願いしますね。(Byチーム担当ひかる)

共同プロジェクト

今年度も共同プロジェクトを行っていきます。それに当たって少しどんな感じになっているか紹介します。

昨年度、移送サービスが数団体で連携して動くことでとてもいい成果があったのをきっかけに、もっと各団体のことを知ろう、一緒に連携してやっていこうといった趣旨でこの「共同」プロジェクトは立ち上がりました。1年を経過して、ずいぶん各団体さんの顔が見えてきました。今年度も株式会社フェリシモさんの助成に助けられながら次のようなことを行っていこうとみんなで話し合いました。次回のじゃりみちには具体的な内容が紹介できるかと思います。今回も何回か話し合いをしたのですが、各団体さんが「共同」ということを意識しておられるために、なかなかいいアイデアが出てきていて、とても楽しみなんです。

移送サービス

通院、入浴サービス、その他を目的として自動車による移送やいろいろな支援。

被災地、仮設住宅、復興住宅をつなぐ

復興住宅へ入居されることにあたって、安心して新しい生活がスタートできるようにボランティア間で介護のノウハウなどの情報の伝達をし、ボランティアの引き継ぎをする。また地域の人たちとなじみやすいような働きかけをする。

生きがいづくり支援

生きがいがないと痴ほうなどの症状も進むことから、手作り品を作ったり、販売することなどで生きがいをつくり、生活再建の意欲を増進する。

看護、介護、心のケア

お年寄りの多い仮設住宅にはある程度の看護、介護、心のケアの専門知識が必要ということで、そういったボランティアの育成をめざし、福祉介護ボランティアの確保をする。

子どもプロジェクト

遊ぶところがないことからのストレスを解消するとともに母子のこころのケアもする。

その他被災者支援のモデルとなる事業

支援物資の支給：生活の支援、ボランティアが入っていくことのできるきっかけとして。
被災地からの情報発信：被災地の現状を広く一般へ伝える。例えばFAX情報システム、インターネットなどを利用する。

《仮設は今...》

尼崎市編

尼崎市内にあるほとんどの仮設住宅が公園の中にあります。早朝から人が集い、子どもたちの声が届く環境はいいことだと思います。また尼崎市の仮設住宅の特徴として、50ヶ所ある仮設住宅の内、50戸未満の仮設住宅が39ヶ所あるということがあげられます。それは知られたくないということまで伝わってしまったり、ぎくしゃくした関係になりやすいという面はありますが、よりきめ細かなつきあいが住民同士の間でできるということだと思っています。「あき（尼崎）は、小さな仮設住宅が多いからとても親しくつき合える」と、言い切ることはできませんが、それでも尼崎の仮設住宅に住もう方たちにとって、この2年間は「住んでよかった」といえる2年だったと思います。

97年に入って、撤去の決まった2つの仮設住宅から他の仮設住宅への転居が始まり、私たちボランティアグループ“マイム・マイム”もこの3月に1件引っ越し手伝いをさせてもらいました。復興住宅や自宅に引っ越す方ももちろん増えていきます。小さい仮設住宅だからこそ1戸引っ越されただけで、取り残されていく思いはより大きく感じることを思います。

また引っ越し側にとっても、住み慣れたところ

からすでに2年経過して、それなりのつながりを持つ他の仮設住宅にはいることは、そこもやはり仮の住まいであるだけに落ちつかない思いで引っ越すのではないでしょうが。

震災前住んでいたところには、以前の何倍もの家賃を納めなければ入れない住宅がたち、足腰など身体に不安を持ちながら、「今後いつは入れるかわからなから」と県住・市住の上の階（3階以上）の家が当たって引っ越すなど、仮設住宅を出たから（出るから）何の問題もないということでは決してありません。たとえ仮の住まいであっても同じところで1年2年と暮らせば、それなりに人とのふれあいやつながりが生まれると思います。

早く仮設住宅を出たい方にとっても次の住まいでの不安があり、「仮設住宅を出たくない、いつまでもここにいたい」という方にとっても、環境の良さと仮設住宅の方たちといつが離ればなれになることへの寂しさがあると思います。

尼崎に限らず仮設住宅に住もう方たちにとってこの2つが今の共通している、そして共有している思いだと想います。

ボランティアグループマイム・マイム Yosshi

どうしたらいいのか悪いのか、ようわからへん

先日、孤独死が144人にものぼった記事を見ました。ほんのつい最近140人という記事を読んだばかりだったのに。昨年96年の4月の時点で60人の孤独死発生という報告だったのが、この一年間では100人近く亡くなられており、単純に計算しても4日に1人の割合で孤独死が発生しているのです。プロジェクト結ぶの関わっている仮設住宅でも最近孤独死があり、それについてすこし代表のふきちゃんからコメントを頂きました。

この人は、人との関わりを断っている人だったという話を聞いたの。だから、誰にも看取られずに孤独死したんじゃないかって。比較的健康な方だったという話もあり、私たちのグループで行っている定期的な戸別訪問のリストの中にお名前はなかった。

でも、ある日突然「また鳴尾浜で孤独死だって」って話になる。「通っている仮設なのに、防ぎようってなかったのかな？」と思ったりもする。「どうしようもないよ」って声もある。でも、仮に嫌がる人の家を訪ねてしよっちゅうチェックして、結果、亡くなる日が遠くなったとしてら、それってどうなんやろう？… 少しずつお互いの親しさが増してどこか家庭的なおつきあいになって、たまたま孤独死を防いでしまっていた。そんな継続的な関わりなら、人間として好ましいように思えるけど、震災のボランティアの立場での訪問では、どうしたらいいのか悪いのか、よくわからへん。

これから仮設住宅にお住まいの方が、公営・市営住宅に転居される。また全く知らない地域での暮らしがはじまる可能性は少なくない。そしてまたコミュニティから分断される。まだまだこれから孤独死みたいにくさくさの人が亡くなりはるんやろうな…。

——震災に遭わなかったとしても、この人たちは孤独死しはったんやろうか？私はずっと考えている。それぞれの方の内側にある根の深い問題の存在が影響してると思うこともある。これからはただ「孤独死を防げ！」っていうんじゃないくて、人間としてどう生き、どう死んでいくのかを、いろんな人の絡みの中で見ていけへんやろうか？ そう思う今日この頃なんです。

プロジェクト結ぶ 石井布紀子

「提言・提案」チーム、「NGO共生・共創センター（仮称）」チームという2つのチームが最近できたのですが、各チームでの具体的な話し合いをちよつとまとめてみました。

提言・提案チーム

今回の話し合いの中では4つのポイントが出てきました。

1. ボランティアに対する提言・提案活動

課題： ボランティアというもの、またその役割を考えねばならないのでは？

ボランティア活動は「知る→動く→情報発信する」であり、この中の「情報発信」は、我々ボランティアが代弁、もしくは「代孝」活動としての機能を果たす必要があるのではないか。

…たしかに、先日起きた日本海の重油に関する活動で「ボランティア」というものがもう一度見直されたような気がする。しかし、それはあくまでも表面上のことであり、実際にこの重油ボランティアが、情報発信、ひいては提言・提案につながる活動を行ったかということでは、疑問が残る。

「ボランティア」というものを検証するためにも、「ボランティアに対して意識改革的な提言・提案が必要である。」という意見が出ました。

2. NGOとしての提言・提案

課題： 一体どこへ提言・提案していくのか？

国会・地方行政・メディア・県知事・市長・県議会・市議会…？

仮設NGOとしての提言・提案を、「公的支援」というものを切り口として議論してみた。

結論：「自然災害に対する公的支援制度の立法化」を求めるといふ形にすれば、「仮設」NGOの最大公約数としての提案になるのではないかとこのようにまとめた。しかし、この提案は今国会期中に出さなければ効果が半減してしまうということもあり、非常に慎重かつ迅速に行動しなければならないというのが現状。（とはいえ公的支援をめぐる状況は混沌としている。）

3. どう提言・提案を提出する？

・じゃりみちを使って、ボランティア検証、公的支援の特集を組んでいろんな方々（例えば被災者、ボランティア団体の方など）から意見をもらって、それを全国に発信していくなど、4/17（木）のぞつくらんで話し合うことになりました。

4. 仮設NGOの役割は？

これらに関する「仮設」NGOとしての役割をきちんと考えなければならない。

共創・共生センター（仮称）チーム

そのスペースを使って内職する人もいれば、そこでただ話をしていく人もいて、そしてなにがしかの情報も手に入って…。いままでのコミュニケーション不足から起こってきた様々な課題の解決のためにも、こんな空間が必要なのではないでしょうか。…そんな感じから出てきたこの提案。

1. リサイクルショップをしよう！

ひとが集まれる空間って何？

地元でがんばって店を開いているところに影響を与えず、しかも子どもからお年寄りまで集まれる場所。安くものが手に入って、使い捨ての社会を見直す意味もあるし、そこに仮設住宅の人たちが作った手作り品の展示や販売もすることで仮設の人たちが来やすくし、まちに戻るきっかけづくりとする。たとえばミシンがあるので、雑巾を縫ったりするのと平行して、ちよつとした細工で売れない古い衣類を売れるようにアレンジするとか。昔のまちの地図を作ることで仮設の人を呼び、作ってもらう。自分のまちが見れるし、ひいてはその地図からコミュニティの原点を探したり…。

2. 実行委員会形式にしよう

地域の人と一緒にやっていくには？

「仮設」NGOのみというのではなく、みーんなで作っていくためにも実行委員会とし、仮設住宅以外の支援もしている地元のボランティア団体さんにも入ってもらった。

そのほかにもいろんなアイデアが出て、元のまちにもどる細工、安心して住めるコミュニティ、生活再建のための仕事探・生きがい探し、ボランティアの情報交換の場…という感じをキーワードに具体的に中身を作っていく作業に入りました。

引っ越しプロジェクト発動！

これらの記事は引っ越しについての市民、市、県の動きです。今回、がんばろう神戸さんが中心になって引っ越しプロジェクトを行うことになり、私たちも参加していくことになりました。

まかせて下さい仮設からの引っ越し

引っ越し手伝います――。震災から2年がすぎ、仮設住宅から恒久住宅への転居が本格化するのを前に、神戸・阪神間で仮設住宅の住民を支援しているボランティアグループが「市民版ひっこしプロジェクトネットワーク」をつくり、引っ越しの応援を始めた。被災者の精神的、経済的負担を少しでも減らしてもらおうとの活動。

仮設支援ボランティアはほとんどが地区単位で活動している。ところが仮設住宅から恒久住宅への移転は、区域や市域を越えてのケースが多くなる。そこで各ボランティアグループが互いに連携して、スムーズな転居の手伝いをと計画した。3月に神戸市のほぼ全域と西宮市などの計11グループが協議して準備を開始。同様のグループや引っ越し先の住民団体も協力を呼びかけ、体制を整えた。

引っ越しは基本的に2グループが手伝う。これまで支援をしてきたボランティアが荷造り、運搬を担当。引っ越し先で地元ボランティアが引き継ぎ、自治会や婦人会のメンバーとともに荷ほどきを手伝う。荷ほどきなどを地域の住民に手伝ってもらうことで顔見知りを増やし、ゴミの日や近くの店など生活情報を気軽にたずねる近所づきあいや人間関係づくりのきっかけにしてもらう狙いもある。これらのボランティア間の調整は同プロジェクト事務局で行う。

事務局は神戸市北区の「情報公開広場・ミックススペースV」に置き、毎日午前10:00から午後6:00まで引っ越しの相談や申し込みを受け付ける。同時に、同プロジェクトに参加するボランティア団体も募集し、ネットワークを広げていく。フリーダイヤル：0120-154043（ひっこしはしみん）へ。
神戸新聞 97/4/10

仮設から引っ越し お年寄りらを支援

「ふれあいのまちKOBE・愛の輪運動推進委員会」（事務局・神戸市社会福祉協議会）の呼びかけに応じ、神戸市の外郭団体が市内の仮設住宅に住む高齢者・障害者世帯の引っ越しを支援するボランティアグループを結成した。仮設住宅から災害復興公営住宅への入居が増えており、需要が高まりそうだ。同推進委に加入する住宅供給公社、都市整備公社など神戸市の32の外郭団体の370人で74グループを結成した。

市社会福祉協議会が、各区のボランティアセンターに引っ越しを申し込んだ被災者にグループを紹介する。派遣されたボランティアは荷造りや荷ほどき、清掃などを手伝う（郵送は対象外）。

神戸市内の仮設住宅には高齢単身者世帯が約6,000世帯あり、自力での引っ越しが困難な人も多い。復興公営住宅への移転がピークを迎えるのを前に、被災者からの依頼の増加が予想される。同推進委は今後、民間企業や労働組合、学生にもグループ結成を働きかける。

朝日新聞 97/4/16より

引っ越し手伝い運動の展開を

生活復興県民ネットは、引っ越し手伝い運動の展開について具体的に提唱を展開するためにただ今検討中。

生活復興県民ネット事務局企画委員会より

今まで仮設住宅に関わってきた頃から見えてきたことの一つとしてよく「コミュニティの大切さ」をあげてきたと思います。今回のプロジェクトはそういった公営住宅などに移ってからのケアをにらんだプロジェクトです。しかも震災後2年間で初めてほとんどの団体が参加しているといった特色もあります。また記事にもあるように、県や市も引っ越しボランティアについて検討しており、市民と県と市という3者のネットワークをつくることで、被災地内で初めての行政との連携ができるかもしれない可能性も含んでいます。うまくいけば震災から新しい社会システムを作るきっかけになるのかな？なんて考えてしまいました。

決闘全体会の告知あせ

次回全体会は4月23日(水)18:30~ 「仮設」NGO事務局にて。
5月14日(水)は総会です。

情報コーナー

展示・劇

★5/10(土) 演劇キャラバン「てくてく」

場所：湘南大庭公民館 (0466-87-1111)
13:00~ 大人700円 小・中・高500円
問い合わせ：0466-87-2543 高須賀まで

◎4/29(火)~5/25(日) らいじんぐ

涌嶋克己(WAKKUN)のドローイング展
JR大阪セルヴィスギャラリー (06-346-3564)
10:00~19:00 入場無料

♣5/3(祝)~17(土) 橋口譲二写真展「職」

日本人と日本人を知るための仕事
場所：おう典院 (大阪市天王寺区 06-771-7641)
10:00~20:00 入場無料
主催：おう典院寺町倶楽部
長いキャリアのベテランと仕事の面白さがやっとなり始め
た若手。2人の関係性の中から見えてくる職業感や生き方の違
いを撮り続けた写真展。村井さんも写ってるよ(必見)

シンポ・会議

♥4/24(木) 市民版ひっこしプロジェクト

10:00~阪神・淡路コミュニティ基金にて

◆5/6~7/15(毎週火曜日)

豊かな多文化共生社会をつくるためのボラ
ンティア講座

「講座(1)異文化を理解するために」
場所：大阪市立弁天町市民学習センター(06-577-1430)
参加者：50名まで
参加費：全12回7,500円(資料代込み)
問い合わせ：06-941-4793 多文化共生センター
担当：のりおか(日・月・祝休み)
E-mail: QWD01242@niftyserve.or.jp

★4/26(土)

憲法が被災者を救う!! 公的支援を求めて

日本国憲法施行50周年記念シンポジウム
場所：兵庫県農業会館(三宮) 13:00~16:00 入場無料
主催：神戸弁護士会 078-341-7061

♥リサイクル用品下さい!!

今年度、「仮設」NGO連絡会でリサイクルショップを開こ
う!という話が上がっています。で、そのための物品を大募集
します。日用雑貨が嬉しい。電化製品、家具、衣類は取り
扱いません。石鹸とか、タオルとか、せともの、文具とか...
問い合わせ：078-578-6922 「仮設」NGO事務局

◎くるりん移転しました!

西宮のプロジェクト結ぶさんが開いているリサイクルショップ
「くるりん」。場所を移転し、新たに始めました。聞くとこ
ろによると、仮設や地域の方の方がたくさん手伝ってくれて、み
んなでわいわい作っただけです。すんごくおしゃれになっ
ちゃったので、ぜひぜひ!来て下さいとのこと。 「地域から愛
される店になってきたよー」って。
新住所：西宮市深津町3-27 TEL: 0798-67-6641

♠5/10(土) 花咲く家の物語

作・演出：マルセ太郎
昼の部：開演14:00 夜の部：開演19:00
場所：近鉄小劇場(大阪) 前売り3,800円 当日4,300円
問い合わせ：06-771-1009(10:00~18:00)近鉄小劇場

◆5/3(土)~11(日)

「灰谷健次郎といのちの広場」展

場所：フェニックスプラザ(三宮)
10:00~19:00 入場無料
5/5(月) いのちのための三重奏
永六輔・高石ともや・灰谷健次郎のうた&トーク
場所：神戸松方ホール(H-パ・ラウド)
14:00~(開場13:30)
前売り券3,000円 当日券3,500円(全席自由席)
ボランティアスタッフ大募集!!
3日から11日までの受付や展示・搬入などのボランティアを
募集します。灰谷さんの世界にひたってみませんか?
チケット・ボランティアの問い合わせ：「仮設」NGOまで

バザー

▼6/12(木) 弘法大師御影供二箇法要&阪神・淡路大震災チャリティーバザー(震災パネル展示)

場所：東光寺(入間市小谷田) 法要・バザー 15:00~
主催：真言宗豊山派埼玉3号仏教青年会
薬師護摩祈願お申し込みのご案内
無病息災の護摩札を授与致します。ご希望の方は下記までお申
し込み下さい。祈願料：3,000円
問い合わせ：0429-62-5442 東光寺 / 0429-62-3327 不動院

●5/18(日) わいわいフェスタ in 同朋大学

場所：同朋大学稲葉地キャンパス(愛知県)
10:00~16:00 (雨天の場合5/25)
問い合わせ：052-413-6304 同朋大学ボランティアネットワーク

♣クッキーとインスタントコーヒーあります

ご希望の方は事務局まで。

♡毛糸あります

問い合わせ：030-829-2939
poco a poco鷹取 神生まで

その他

♣ポストカード買って下さい

震災で被災し、姫路市に住む画家の森さん。被災者の心を癒せる
ような作品をといて描かれたそうです。「破壊のあとには必
ず創造がある」「痛みと一緒に前向きな気持ちを素直に表した」と
いう森さんの言葉通りに瓦礫が少しのぞいた地面から元気いっばい
にのびる草花の姿があります。16枚でセットのポストカードを販売
しており、収益金はボランティア団体に寄付されます。1冊800円。
問い合わせ：0792-266-3529 姫路心のケアネットワーク 岸岡まで

◆ぐるうぶ・えんのTシャツ買って下さい

ちびくろ救援ぐるうぶが2年間お世話になった須佐野公園
を出て、新開地に拠点を移動して、「えん」という名称に変
わり、新しくスタートします。そこで空(から)くんがデザ
インしたTシャツを1,000円で販売しています。サイズはS/
M/L/LLです。えんを支えるためにもお願いしますね。
問い合わせ：078-576-3593 ぐるうぶ・えん
ビール券ちょーだい

「えん」ではこれから会議室兼居酒屋兼多目的スペースと
して使われることになりました。で、ビール券があったらう
れしいなという声がありましたので、どなたかビール券や
商品券などがあれば送っていただけたらうれしいです。